

(別紙様式)

中山間ふるさと・水と土保全対策事業
中山間ふるさと・水と土保全推進事業

事業実施計画

計画期間：令和7年度～令和11年度

(令和8年度)

計画内容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業計画
3. 事業実施の成果目標と実績
4. 事業評価と対応

石川県

1. 事業実施の基本方針

目標年度	令和11年度
現状と課題	本県の農村地域においては過疎化や高齢化が進み、特に中山間地域では担い手の減少や耕作放棄地の増加により、農業農村が持つ多面的機能の低下が懸念される。
事業実施の基本方針	令和7～令和11年度の5カ年間で計画期間とし、本事業により、農村地域の重要性について県民の理解を促進することで、農村が有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図る。
計画後の目指す姿	本事業により実施される活動や取組みによって、地域・都市住民や時代を担う子どもたちを対象に農村地域の重要性について普及・啓発を行うことで、将来にわたって農地及び土地改良施設の保全体制の充実を図り、多面的機能の良好な発揮を目指す。

2. 事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	5ヶ年間の事業（量）内容	総事業費（千円）				
いしかわ田んぼの学校推進プロジェクト事業	小学生を対象とした農作業体験を行うことで、農業や農作物への理解促進と、環境に対する意識向上について普及・啓発を図る。	①	ふる水第3-2-(3)	・県内の小学生を対象として、田んぼや畑における農作業体験や生き物調査等を、希望校数に応じて実施する。 ・農作業体験等を毎年継続して行うことで、参加児童数のべ11万人以上を目指す。	(33,120)				
いしかわ農林水産業ボランティア事業	人手不足となっている集落において、地域住民と都市住民等が共同で保全活動に取り組むことで、里山保全に対する意識の普及・啓発を図る	②	ふる水第3-2-(1)	・能登半島地震等により被災した農地等の保全活動を行うため、農家等からの要望に応じて都市住民等との調整を行う。 ・発災後2年間でのべ4,000人を目指す。	(34,400)				
			棚田第3-2-(1)		(53,792)				
河北潟植生保全管理事業	河北潟において植生の現状調査を行い、植生保全を通じた水質浄化の調査研究を行うほか、検討会を通じて住民活動の活性化に関する人材育成を行うとともに、環境保全に係る普及・啓発活動を実施する。	③	第3-2-(1) 第3-2-(2) 第3-2-(3)	・河北潟の水質浄化に向けて、継続的に植生保全管理、外来植物の除去を行うほか、状況に応じて水生植物の生息状況等の実態調査を行う。 ・水質改善の取り組みを促進するため、住民とともに水辺の管理手法の検討を行うほか、毎年、地域住民や子どもたちを対象に、河北潟自然再生まつりや水辺体験会を実施し、年間あたりの参加人数100人以上を目指す。	(10,000)				
ふるさと保全推進費	河北潟干拓地における農業が有する多面的機能を普及・啓発するため、ひまわり村を開村し、地域・都市住民に対して地域の振興発展の意識向上を図る。	④	第3-2-(3)	・河北潟干拓地内の農地の一部を活用してひまわり村を毎年開村し、年間あたりの来場者3万人を目指す。	(5,500)				
棚田保全対策事業	棚田地域の保全活動や土地改良施設の保全・利活用により、農業生産活動及び農村コミュニティの維持・活性化、棚田地域の多面的機能の発揮を図る活動に対して助成し、活動の必要性の普及・啓発を図る。	⑤	棚田第3-2-(2) 第3-2-(3)	・住民組織による棚田オーナー制度、農作業体験イベント等の棚田の保全活動に対して、要望に応じて活動助成を行う。活動計画に応じて、最大3年間の継続的な支援を行うとともに、毎年1地区以上の取組を目指す。	(5,000)				
里山地域活性化推進事業	スローツーリズムやグリーン・ツーリズムの推進により、里山里海地域の活性化を図ることを目的として、都市住民に対する情報提供を行う。	⑥	第3-2-(1)	・スローツーリズムやグリーン・ツーリズムの推進にあたり、本県ならではの多様なサービスを提供していくため、継続して農家民宿の普及拡大、県内外への情報発信を行うことで、年間あたりの農家民宿等の入込客数20,000人を目指す。	(12,000)				
中山間地域対策事業	中山間地域の魅力発信や、交流人口の拡大を図るための体験の場の提供を行う。	⑦	第3-2-(1)	・年2回、ふるさとの匠による体験教室を実施し、都市住民への体験交流の場を提供し、中山間地域の役割や豊かさについて継続的に理解を深める。	(5,080)				
石川の農林漁業まつり開催事業	農林漁業まつりの開催を通して、農林漁業に対する県民の理解促進を図る。	⑧	ふる水第3-2-(3)	・県民皆で秋の収穫の喜びを分かち合い、農林漁業関係者と消費者とのより緊密な関係を構築するとともに、県産農林水産物・加工品の販売や体験、展示により農林漁業への理解を深めるためのイベントを年1回開催し、来場者数3万人を目指す。	(5,300)				
			棚田第3-2-(3)		(14,700)				
				令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
中山間ふるさと・水と土保全対策事業（ふる水と土基金）	計画事業費	22,084	19,384	19,384	19,384	19,384	99,620		
	（実績額）	(15,170)							
中山間ふるさと・水と土保全推進事業（棚田基金）	計画事業費	16,594	20,808	20,808	20,808	20,808	99,826		
	（実績額）	(10,349)							

3. 事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標	指標	基準値	目標値	年度ごとの実績					達成度
				令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
① 農業や農作物への理解促進と、環境に対する豊かな感性を持つ子どもの育成を支援する。	・のべ参加児童数	のべ85,500人 (R6時点)	・のべ11万人以上	のべ91,592人 (R7実績)					
② 里山に対する理解の醸成を図る。	役立ち隊登録者数	679人 (R7.1月末時点)	・のべ750人 (1割増加)	のべ730人 (R8.2月時点)					
③ 河北潟において植生保全を通じた水質浄化の調査研究を行うとともに、環境啓蒙活動を実施する。	・保全管理による植生の回復 ・環境啓蒙活動イベント参加人数		・イベント参加人数 100人/年以上	・植生保全管理、外来植物除去、水生植物の生息状況等実態調査を実施 ・環境啓蒙活動イベント289人参加					
④ ひまわり村を通じた、河北潟干拓地農業の普及啓発と、地域の振興発展を図る。	・ひまわり村への来場者数	2.8万人/年 (R2～R6平均)	・3万人/年	・1.8万人/年					
⑤ 棚田地域の保全活動や土地改良施設の保全・利活用により、農業生産活動及び農村コミュニティの維持・活性化、棚田地域の多面的機能の発揮を図る	新規取組地区数		・1地区/年	1地区					
⑥ スローツーリズムやグリーン・ツーリズムの推進により、里山里海地域の活性化を図る。	農家民宿等の入込客数		・20,000人/年	12,000人 (見込み)					
⑦ 中山間地域の魅力を都市住民に発信し、交流人口の拡大を図る。	ふるさとの匠による体験教室の開催回数		・2回/年	3回					
⑧ 農林漁業に対する県民の理解促進を図る。	・イベントへの来場者数		・3万人/年程度	約3万人/年					

4. 事業評価と対応

達成すべき目標	事業実績の評価		備考
	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針	
① 農業や農作物への理解促進と、環境に対する豊かな感性を持つ子どもの育成を支援する。			
② 里山に対する理解の醸成を図る。			
③ 河北潟において植生保全を通じた水質浄化の調査研究を行うとともに、環境啓蒙活動を実施する。			
④ ひまわり村を通じた、河北潟干拓地農業の普及啓発と、地域の振興発展を図る。			
⑤ 棚田地域の保全活動や土地改良施設の保全・利活用により、農業生産活動及び農村コミュニティの維持・活性化、棚田地域の多面的機能の発揮を図る			
⑥ スローツーリズムやグリーン・ツーリズムの推進により、里山里海地域の活性化を図る。			
⑦ 中山間地域の魅力を都市住民に発信し、交流人口の拡大を図る。			
⑧ 農林漁業に対する県民の理解促進を図る。			
⑨ 保全活動に参加を希望する都市住民等の登録・調整を行う。			